

# 素敵な助産師さん、見~つけた!

今回の素敵な助産師さんは  
大西亜希さんです



高松赤十字病院で勤務しています大西亜希です。私は、助産学校を卒業後、高松赤十字病院に就職して以来18年の月日が流れました。1人目を10年前にぽっこ助産院で出産しました。母としても助産師としても貴重な経験をすることができました。現在は2児の母として、仕事と育児の両立に日々奮闘しています。仕事では、産婦人科病棟・NICUでの勤務を得て、現在は女性病棟で勤務をしています。女性病棟は、婦人科・乳腺外科を主幹とした混合病棟であり、高度生殖医療センターを併設しています。周手術期からがん治療中、終末期患者など様々な患者に関わっています。昨今、AYA世代のがん患者も多くなってきており、当院でも妊孕性温存療法も行っています。がん診断後のショックが大きい中で、短時間で妊孕性温存を選択することの難しさや原疾患治療後の妊娠することへの不安や迷い、長期に渡り支援することの重要性を感じています。また不妊治療の患者とも多く関わっています。不妊治療は2022年4月より保険適用となり、患者数も多くなっています。日本産科婦人科学会の報告では、2022年に出生した10.6人に1人がARTにより出生しています。不妊治療は心身に負担が大きいため、妊娠に至るまでのグリーフが大きく、産後に虐待のリスクが大きくなると言われています。出産はゴールではなく新たな生命のはじまり。母子の健やかな成長をサポートする助産師だからこそできる「不妊治療中から将来を見据えた心理的ケア」を行う役割と責任があると思います。女性の生涯に伴走する助産師として、病院から地域までどの時期にも寄り添うケアが大切であると感じています。私に今できることをスタッフと協力しながら、今後も母子・家族・女性のために探りながら行っていきたいと思います。

## 12月・1月の研修会及び行事

開催日時	研修会演題名	定員	参加費
場所	講師名		会員 / 非会員
12月15日(日) 10:00~11:30 いのちの応援舎(高松市春日町1176)	「(仮)周産期のメンタルヘルス」 香川県健康福祉部子ども政策推進局 子ども家庭課 母子保健グループ 青野美穂	30	1000円/2500円
令和7年1月25日(土)9:00~12:00 香川大学医学部附属病院 地域医療教育支援センター (スキルラボラトリー)	「新生児蘇生法(NCPR)スキルアップコース」 インストラクター 高松赤十字病院・助産師 熊野 明江 (一社)香川県助産師会・助産師 高田 恵子	12	3000円/6000円 非会員の申込みは 9月2日(月)から 申込み期限 12月2日(月)厳守 16時まで ほか 下記要参照

＜参加の申し込み＞

すこやか助産師センター事務所へ、電話またはFAXでゆとりをもって申し込みをしてください。

Tel : 087-844-4131 Fax : 087-844-4130 電話受付時間 : 月から金曜日の10:00~16:00(祝祭日を除く)

\*新生児蘇生法(NCPR)スキルアップコースについて

・会員を優先とします。会員・非会員ともに申込期限は、**2024年12月2日(月)16時まで**とします。

・ただし期限内であっても募集定員(12名)に達した場合は、その時点で募集を終了します。

申し込み時には、**認定番号、有効期限、所属施設、携帯番号**を必ずお伝えください。

【その他 研究会】

月日	学会およびテーマ	会場
2025年2月9日(日)予定	第17回香川県小児保健協会研究会	香川県立保険医療大学 香川県高松市牟礼町

### ★すこやか会のお知らせ

2月15日(土曜日)10時から、いのちの応援舎で行います

# とらうべ通信

2024.12月号  
No.107

発行所 : (社)香川県助産師会 高松市春日町1176

発行責任者 : 佐々木 三千代 ☎ : 087-844-4131 FAX : 087-844-4130

## 副会長挨拶

副会長 直井 初美



紅も遅く夏が長く秋が短く年ごとに温暖化が進んでいるのを強く感じるこの頃です。会員の皆様には日々香川の母子保健に、ご尽力いただき心より感謝申し上げます。

助産師会の動向としては来年11月に香川母性衛生学会学術集会を開催いたします。

香川県助産師会が担当です。多くの会員の皆様のご協力ご出席よろしく申し上げます。11月には今年も「いいお産の日」の事業を東西二か所の会場で行いました。

西会場では天候もよく、多くの母子やご家族が参加されており大変盛況でした。

私は、抱っこ体験担当でした。今回は催し会場でなく、一つの部屋で行いました、早く来られた方には部屋に入ってもらい、ご夫婦といろいろな話をすることができました。

その中で一組のご夫婦は、まだ妊娠してなく、妊活中で実母から今回のイベントを聞いて「赤ちゃんのいる生活はどんなものか知りたくて出席しました」と言って、抱っこ体験の私の話を真剣に聞いてくださり夫婦で交替しながら赤ちゃん人形でしっかり抱っこ体験されていました。それを見ていた私は、あったかい・ほっこりした気持ちになり自然に笑顔になりました。

両会場とも準備は大変だったと思いますが助産師の役割を理解していただく良い機会となりました。

ご協力いただいた皆様に心より感謝いたします。



防災対策用電話のご案内

☎ : 070-9356-0147

LINE登録をお願いします。  
詳しくは別紙参照

### 災害対策委員より

#### 10/12 日本助産師会災害対策委員会オンライン連携集会

能登半島地震に関する石川県助産師会や東海地区理事の対応についての報告がありました。

被害状況に加え、元日だったことが影響し、関係機関との連携が非常に困難だったとのこと。

最後には、被災県から見た災害対応の課題について提起があり、自分たちができることとできないことを把握しておく重要性や、早期からの支援者支援の必要性を再認識しました。

#### 10/27 香川県総合防災訓練(香川県消防学校)

南海トラフを震源とする最大規模の地震を想定した訓練が行われ、県内の50余りの団体が参加して、防災関連機関の連携強化を図りました。訓練内容には、避難所の設営、インフラの復旧、自衛隊の車両やドローンを使った情報収集、ドローンを活用した孤立地区への物資輸送、船による支援物資輸送、災害現場での負傷者救護、ドクターヘリによる搬送などが含まれていました。展示・体験コーナーでは、高松地方気象台や香川県砂防課などのパネル展示があり、災害用伝言ダイヤルの体験や「00000JAPAN(ファイブゼロジャパン)」という、災害時に利用できる公衆無線LANの仕組みについても学ぶことができました。近年、地震のみならず自然災害が増加しており、災害への備えと当会の災害対策の見直しを進めていきたいと考えています。

研修報告

産後食と離乳食

大島 嘉子



令和6年7月28日（日）栄養士の佐藤直美先生をお迎えし、「産後食と離乳食」というテーマで研修会をして頂きました。「お産後、お食事は美味しく食べられていますか？と声をかけることで見えてくるものがある。」とお話をしていただき、産後身体の回復に必要な栄養素が摂れているか、作ること、食べることにストレスはないか、食生活からアプローチし、健康を支えていく大切さを改めて感じました。産後の忙しい生活の中でも、効果的に栄養素が摂れる食事の工夫や家族が元気になるような食事をするのが大切とお話下さり、とても勉強になりました。赤・黄・緑の彩りをよくすることで自然と栄養素が揃った食事になると日々の食事作りに生かせるポイントも教えて下さいました。離乳食についても、約8割の保護者が困りごとがあると感じていて、この時期の食事に関するニーズの高さを感じました。今は食べられない食材でも食卓に出し続けることで食べられるチャンスを作り続ける、食べられない日もあるよね。と大らかな気持ちで、楽しく食事をするのが大切と教えていただきました。今後のお母さん達との関わりの中で、少しでもお母さんの気持ちが楽になるよう、家族が健康になれる楽しい食事の時間を過ごしてもらえよう今日の学びを生かしていきたいと思ひます。佐藤先生ありがとうございました。

研修会に参加して

杉本 鈴



2024年9月8日に田中幸子助産師を講師に迎え、「周産期の骨盤ケア」が開催されました。「妊娠中及び産後の身体的ケア～伝えたいケアの実技」をテーマに実技中心の研修会となりました。ベテラン助産師の技を対面で教えていただける機会にワクワクしながら当日を迎え、研修会の中で私自身も田中助産師さんの手技を実際に体験でき、手技の奥深さに驚くとともに温かい手で触れてもらう心地よさを感じました。症状に併せて骨盤のみでなく、下肢や上肢へのアプローチなど全身に触れることを教えていただき、数人で組み身体に触れ合い、手の当て方、力を入れる場所、力加減など手技を確認しあいました。骨盤ベルトの使い方、母乳ケアなど日々ケアを提供する中で気になっていることなども相談でき、このようなときはここを観察したら良いよと観察のポイントやケアへのアドバイスもいただき、田中助産師さんの数十年に及ぶ妊産婦さんと関わってこられた知識と技術を余すことなく伝えてくださいました。今回の研修での学びを今後関わっていくお母さんたちへ還元できるよう精進していきたいと思ひます。ありがとうございました。



産後ケア施設開業のためのセミナー開催について

産後ケア事業評価委員会

令和6年度通常総会資料で報告しました「助産師が行う産後ケア事業の利用実態と課題」から、利用者の居住地域で気軽に利用できる産後ケア施設を増やしていくことが喫緊の課題と考えました。そのためには、助産師による産後ケア施設を17市町全域において開業する必要があります。そこで、助産所の開業を考えているが、決断に至らないとお悩みの皆さんの後押しになれるよう、現在、助産所を開業し産後ケアに従事している助産師から、「助産所の開業に向けた取り組みと課題」についてお話しいたいただき、一歩踏み出せる機会を作りたいと考えました。また開業している助産所ごとのブースに分かれて個別相談もできます。会員、非会員を問わず参加費は無料ですので是非、ご参加ください。

日時：令和7年2月15日（土）13時から15時

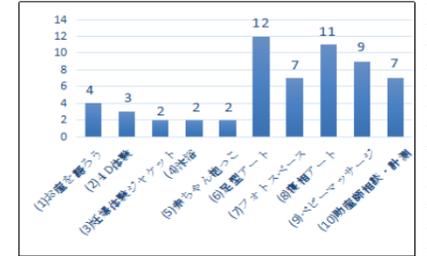
場所：いのちの応援舎（高松市春日町1176番地）

助産所：ぼっこ助産院、Ki:no助産院、すず助産院、みゆき助産院、助産院 樺



今年も恒例1103の日に、いのちの応援舎において無事開催することができました。というのも、台風が近づき大雨警報のおそれにドキドキしましたが、当日早朝のすがすがしい青空に思わず、笑顔で一礼しました。今年のイベント内容は、昨年と同様、1座談会「お産を語ろう」、4専門体験ブースを実施しました。メインイベントの座談会「お産を語ろう」では、今年パネラー5名の方が全員現役の助産師であることがポイントでした。その語りには皆、臨場感あふれ、自分だけの大切なお産として存在していました。語り手聞き手の助産師アイデンティティにどう影響したでしょうか。一方、足型アート、待ち時間に楽しめるフォトスペース、寝相アートも工夫を凝らしてお出迎えできました。又、壁面を利用して、今知ってもらいたい産後ケア事業、施設紹介を加えて施設紹介を一新しました。日赤施設より提供していただいた災害グッズ展示に加え、自動再生動画（無声）で防災意識を高める工夫がされました。

【アンケート結果（抜粋：3. 参加したイベント複数回答）】



イベント全体の満足度・スタッフの対応ともに100%満足と回答されました。

1家族2講座まで予約可能だったため、ベビーマッサージと足型アートを1家族が時間差で体験されました。純粋にネット検索でイベント参加された妊娠中のご夫婦が2組、妊婦体験・沐浴・赤ちゃん抱っこを体験され、真剣な表情と笑顔がみえ、幸せいっぱいのお産の日イベントは十分達成できました。これは、6月から約半年間の長丁場、実行委員として一生懸命に活動していただいた助産師や学生ボランティアの皆様の力の結晶です。この場を借りて感謝申し上げます。



第28回いいお産の日（西会場）活動報告

西会場実行委員長 竹内 美由紀

11月10日、天候にも恵まれ、丸亀市岡田コミュニティセンターにて無事開催することができました。政治は石破総理となり急遽衆議院選挙が実施へ、日程が重なれば会場が使えないという危機を乗り越えての開催でした。今年は、予約不要としました。参加者が未知数の中、できるだけ受け入れ、満員時の代替え方法を考えスケジュールを組み臨みました。内容は、わははネットさんと共催のポンコツパパが伝える育児のヒントと、ベビーマッサージ、赤ちゃんの抱っこと沐浴、マタニティヨーガは、整理券を配布し、待ち時間に自由に利用いただけるように、妊婦体験、寝相アート、足形スタンプ、計測と助産師相談、施設紹介を実施しました。当日は多くの方に参加いただき大盛況でした。参加人数60家族、138名。スタッフ41名と総勢約180名のイベントとなりました。さらに、アンケートは、お土産が功を奏してか、59家族、ほぼ100%に回答いただけました。満足度は高く、時間の都合上満員で参加できなかった方もおいででしたが、ほとんどの方から、貴重な体験ができとても楽しめたとの感想をいただきました。全体を振り返り、笑顔の絶えない空間でした。長く続き、助産師の活動としてまた来年やろうと思えるそこには素晴らしいことが詰まっています。妊娠期・出産・子育て期の各場面で出会った母子との再会、児の成長確認からお互いを認め合う空間、笑顔あふれ、また頑張ろうと元気が出る一日でした。今年は、妊活を控えた夫婦や近くのケアハウスから80代の方が赤ちゃんを見たいとの参加もありました。また、尽誠学園看護学科の学生さんは、学内でも活動報告をされたようで、若い世代へも広がる有意義なイベントとなりました。皆様、ご協力ありがとうございました。

